

# 強行採決、子供たちは戦場に行くことに！



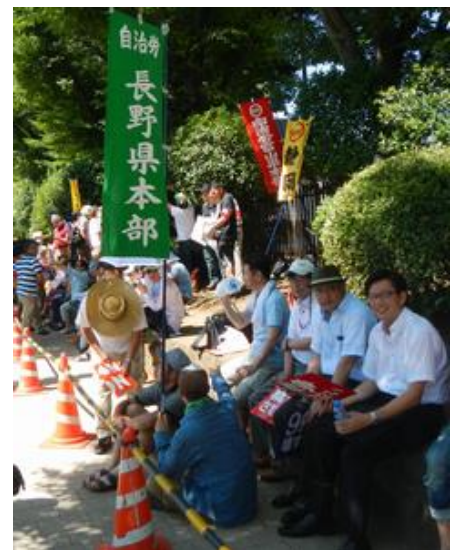
この国はどこへ行かされようとしているのか、今回の行動に参加して政府自民党の危うさと日本の暗澹たる将来に危惧を覚えました。7月15日（水）東京 国会前で行われた「戦争法案反対！国会前連続座り込み行動」に参加してきました。

40度近い猛暑の中、集合場所の衆議院議員会館に向かうと、すでに路上には法案に反対する各団体が参集し国会議事堂に向けてアピール行動を繰り返していました。自治労部隊は地連ごとに集合していた議員会館の101号会議室へ集合しました。炎天下から一転して快適な空調の議員会館でしたが、安全保障関連法案はすでに、衆院特別委員会で自公による強行採決が行われ、両党の賛成多数で可決されたとの情報がもたらされました。これにより、採決阻止の行動から抗議行動へと移行し国会議事堂を取り囲む座り込みを実施しました。

座っているだけで、汗が滝のように流れる暑さの上、強行採決に対する怒りでヒートアップ、シュプレヒコールにも力が入りました。

今回の集会には様々な団体が独自で取り組んでおり、「戦争をさせない。戦争ができる国にしない。」という思いで大同団結したパワーを感じました。特に、戦中、戦後を体験したであろうお年寄りが、多く参加しているとともに、子供を連れたママさんも見られ幅広い年代の方がこの問題に関心を持っていると感じました。

18:30より抗議行動を開始し、民主・社民・共産の各党首がそれぞれの思い、憤りをぶつけました。「日本は戦争を放棄した。それを解釈で戦争ができるようになれば憲法違反だけではない。三権分立、さらには国民主権をも脅かす暴挙でもある。」何としてもこの法案は廃案にしなければならない。あらためてそう誓い合い、19:30までシュプレヒコールを続けました。



# 長野県内でも怒りと抗議で結集

## (長野、松本などに県職労も参加)

長野駅前で抗議の集会が開催され、県職労からも本庁、長野、上小支部の多くの組合員が参加し、抗議に声を震わせ、アピールを行いました。

駅前には戦争をさせない 1000 人集会をはじめ、県労組会議、一般市民の特に若い子連れの女性の参加が目立ちました。

集会後、市内を抗議行進を行い、政府自公への抗議、平和憲法、民主主義を守れと大声でアピールを行いました。県職労も国民を馬鹿にした強硬採決に抗議し、廃案に向けてたたかいます

駅前の集会



抗議の行進



■第 2 次世界大戦の県内の遺族会誌（1986 年から）抜粋

●戦死した主人 【戦死者との続柄 妻 戦死場所 中支方面 行年 32 才】

長男に生まれ 9 才に父と死に別れ。その時兄弟男 2 人、女 1 人でした。母親の女手一人でしたので、昔ですから今の時代のように福祉の制度などなくて、よその家にあづけてもらって学校に通ったそうです。郵便局の集配人になり、29 才で結婚した。その時、局員だと応召がないとかでした。昭和 17 年 4 月戦争中ですから形だけの結婚式でした。ところが 7 月に松本の連隊に教育召集で行きました。2 回目が 19 年 2 月召集で外地に行き、中支方面で、戦死しました。召集をうけた時、自分とはたとえ死んでも靖国神社に祀られるからとは申して居られました。が、その後留守を守って私は苦勞致しました。遺骨は 1 年過ぎてても家に帰らず、何回も長野県庁世話課に行きました。本当に涙のつきる程泣きました。

●インパール戦線で戦死した息子 【戦死者との続柄 母 戦死場所 ビルマ 行年 25 才】

長男として、大正 9 年 4 月に生れ、昭和 10 年に高等科 2 年を卒業、青年学校に学び家業の手伝いをして居りました。学業は成績優秀で、特にスポーツが得意で、スキー・野球・陸上競技はいつも上の成績でした。家では小学校 4 年生から父母の手伝いをして、商業がとても好きで、親孝行者でした。15 年に徴兵検査で甲種合格となり、16 年 2 月、陸軍歩兵として入隊致しました。父母は成田不動尊に雨の日も雪の日も一日も欠かさず 5 年間の武運長久を御参りして居りました。新兵教育が終了後、外泊で家内一同楽しく過しました。今になればそれが最後の別れでした。戦争が激しくなり、インパール作戦が行われ、最後の手紙の一節に「君に忠なれば親に孝なり」と残して、19 年 7 月ビルマインパール作戦カレワの地に於いて戦死しました。月日のたつのは早いもので 40 年を過ぎた今日でも時折ビルマの地で元気でいることを夢見て神仏にすがっております。

70 年前、信州でも多くの普通の家庭が戦争の犠牲になり、悲しみ、苦しみました。

私たちは 2 度と同じ過ちを犯してはいけません。